

○ 議長(倉又稔君)

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。〔13番伊藤文博君登壇〕

○ 13番(伊藤文博君)

新政会、伊藤文博です。

3点について質問いたします。建設的姿勢で質問いたしますので その趣旨をよくご理解いただき、的確で前向きなご答弁を期待いたします。

1、北陸新幹線開通に向けた駅周辺まちづくりと交通環境整備について。

北陸新幹線開通を5年後に控え駅舎の基本設計も示されました。駅舎及び周辺まちづくりと交通環境整備について伺います。

(1) 駅舎と周辺まちづくりの設計内容について、簡易設計から基本設計に至るまでの協議経過と、今後の方針について伺います。

① 民間、又はそれを含む各委員会、協議会、まちづくりの会などとの意見交換による諸課題について、十分に検討し設計協議に持ち込まれた上で、設計に反映されていますか。

② 駅舎設計上、留意した事項とそれに関わる今後の方針はいかがでしょうか。

(2) 新幹線開通後の交通環境の確保、並行在来線は地域の大きな課題であります。

① 在来線の存続、経営母体の協議についての進捗状況はいかがですか。

② 新幹線開通後の在来線(北陸線・大糸線)の経営改善について、今の段階から取り組まなければならない課題をどう認識していますか。

2、世界ジオパークのブランドを利用した交流人口拡大について。

「夏までに策定」とされた「交流人口拡大プラン」の中間報告が示されましたが基本構想と実施計画で構成されるというプランですが、中間報告は基本構想部分であり、実施計画は各課から上がってくる段階だそうです。

8月23日に世界ジオパーク加盟が決定した現時点では、全てが遅れています。今後の課題について伺います。

(1) 「交流人口拡大プラン」で市民理解の促進は可能でしょうか。

(2) 「交流人口拡大プラン」に関する今後のスケジュールはいかがか。

(3) 「交流人口拡大」における、糸魚川市、商工会議所(商工会)、観光協会、民間各団体・個人、地域社会の役割についてどう考えていますか。

(4) 認定後の庁内体制は現状で十分でしょうか。

3、教育現場のICT化について。

経済危機対策臨時交付金事業で市内小中学校にデジタルテレビ、パソコン・電子黒板、各種ソフトなどが整備されます。どのように活用を図るのかについて伺います。

- (1) 教育現場の情報化の必要性についてどう考えていますか。
- (2) 教育現場の情報化の目的は何でしょうか。
- (3) ICT設備活用の方針について伺います。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君)

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目、駅舎など設計の協議経過についてであります。糸魚川駅周辺整備については、市議会港湾交通対策特別委員会や駅周辺整備に係る団体の皆様と協議を進めてまいりました。これをもとに平成19年12月に、北口駅前広場の拡張及び橋上駅舎整備の方針を決定いたしましたところであります。

また、JR西日本との協議過程では、事業費低減のための橋上駅舎は、JR西日本から経営分離後の運用を前提に、基本設計を進めてきたところであります。

このように自由通路と橋上駅舎の基本設計につきましては、事業費に留意をしつつ進めてまいりましたが、本年4月に同社から示された当初整備案の概算事業費が大変高額であったことから、見直し案の提示を求め、その結果につきましては、本定例会初日の行政報告で申し上げましたとおりであります。

今後は、補助採択の可能性や財政面への影響等も踏まえつつ、検討を進めてまいりたいと考えております。

2点目、並行・在来線の存続等につきましては、沿線市の協力を得ながら、県が責任を持って存続を図ることとしており、県と沿線3市で構成をする新潟県並行在来線開業準備協議会において、経営が成り立つよう調査検討を進めてまいります。この中、で経営計画案の策定と、国の支援が重要な課題であるとしております。

また、大糸線につきましては、JR西日本の経営で存続するよう、地域住民と一緒に利用者増加を図ることが重要と考えております。

2番目のジオパークにつきましては、現在、交流人口拡大プランの事業計画を策定をいたしているところであります。

1点目、市民理解の促進につきましては、市民の理解が進むようプランに織り込まれた事業の実施

に努めてまいります。

2点目、今後のスケジュールにつきましては、できるだけ早く最終調整をした上で、プランを策定してまいりたいと考えております。

3点目、各団体等の役割につきましては、各団体や地域と密接な協議を行う中で役割分担をし、交流人口の拡大につなげてまいりたいと考えております。

4点目、庁内体制につきましては、ジオパーク推進室を中心に世界ジオパーク認定に取り組む一方、庁内関係各課において連携をとりながら、受け入れ体制についても取り組んでまいりましたが、関係する担当課が分散いたしておるところから、来年度につきましては交流と観光に特化したセクションの設置につきまして、検討いたしてるところでございます。

3番目の教育現場のICT化についてのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますのでよろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

竹田教育長。〔教育長竹田正光君登壇〕

○教育長(竹田正光君)

3番目の教育現場のICT化についてのご質問にお答えいたします。

1点目の必要性についてですが、社会の情報化が急速に進展していく中で、子供たちが情報や情報手段を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけ、情報社会に主体的に対応していく力を備えていくことがますます重要となり、教育現場において、その対応が強く求められていると考えております。

2点目の目的につきましては、大きく分けて3つあると考えております。

1つには、子供たちが情報化社会を主体的に生き抜くための情報活用能力を育成すること。

2つには、教員がパソコンや電子黒板等を有効に活用し、一層わかる授業の実践を図ること。

3つには、ICTの活用により公務の効率化を図り、教育現場の多忙化の解消を図ることです。

3点目のICT設備活用についての方針ですが、情報活用能力の育成については、インターネットやパソコンを上手に使いこなすための活用テクニックだけでなく、情報モラルの向上も重視していきます。

ICTを活用したわかる授業の実践については、各教科や総合的な学習の時間、道徳の時間等において多様な学習の場を設定し、ICT設備の効果的な活用を図ります。また、そのために教員のICT活用指導力の向上に努めてまいります。

公務の効率化については、センターサーバー方式や公務支援ソフトの導入による公務の効率化を検討しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

3点目の教育現場のICT化についてから質問いたします。

必要性については、社会の情報化が進んだと。それに対応する能力を養っていくというのはもちろんなんですが、裏には新学習指導要領が各教科での情報機器の活用を積極的に進めていると。その裏には、やはり学力向上と、学力低下を食いとめたいという思いがあると思うんですね。そこでは、やはりわかる授業ということが非常に重要になってくる。

2006年と2007年に文科省が行った調査では、その授業を行った教員の98%が、児童生徒の関心意欲、態度の観点において効果があったと認めていると。活用の仕方によっては、非常に大きな効果を出していくんだらうなというふうに思います。

必要性についてもう1点は、今後の方針のところで話がありましたが、やはり情報モラル教育だと思うんですね。情報モラル教育については、本来、善と悪という問題については、各家庭でしつけをしていくと。ところが、この情報モラル教育については、なかなか家庭ではできない。家庭でできないのであれば、学校側で学ぶ機会を与える必要があるだろうという側面があって、教育現場でも情報モラルの問題は、随分問題になってますよね。そこで必要性が出てきたということだと思うんですが、この情報モラル教育の必要性について、どのように教育委員会ではとらえておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

お答えします。

情報化が図られることによって、子供たち、私どももそうですが、大変便利になっていきます。そういう表の部分に対して、どうしても影の部分と言うのでしょうか、それが必ずあります。

もう既に皆様もご承知のとおり、1つには個人情報保護というような点がございます。それから著作権の問題、それから匿名性を利用しての誹謗中傷、それから入ってはいけないサイトへ入っていく、そういった危険なサイトへのアクセスですね、そういったふうなところが非常に問題である

と考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その点は、教育の中で十分に盛り込んでいってもらいたいということだと思っておりますが、目的のところで、今、教育長が言われた3つ、まさにそのとおりだと思うんですね。効果的でわかりやすい授業の実践、そして児童生徒の情報活用能力の育成、そして公務の省力化。整備は、これは入り口ですよ。効果の実感、これがゴールだとした場合に、活用と各教科の授業で当たり前のように使われる状態というのが、これが道中であると。この道中とゴールを、どのように市内の小中学校全体に満遍なく、平準化された高いレベルの教育が行われるかということの評価していかなければいけないんですが、それには成果の発表会や研究会などを行っていくというようなことが必要になっていくと思っておりますが、そういうことを考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

新しく学校現場に入ってきます例えば電子黒板等、当市で使いこなせる教員はまだいないと思います。そういった中に入ってくるわけですので、当然、先行している他市の方から講師に来ていただいたりしながらの研修、これを必ず位置づける必要があるというふうに考えております。

あわせて、市内でそれぞれ各学校が実践しているものを持ち寄って協議する、あるいは授業を見合うというような研修も必要かというふうに考えております。そういった中で職員が手ごたえを感じてきている、そういう状況になれば、今ほどの話のような成果の発表というようなところにつなげていくというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今必要だと考えているということだったのですが、実際にそれは計画的に行われていかなきゃいけない。その計画をして、実行していくということについては、今どんなふうを考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

市の教育委員会では、このICT化だけではなくて、教職員の研修計画を年度当初に各学校に示しております。次年度のもの恐らく1月あたりに、また検討することになるかと思いますが、そういった中で今ほどお話があったICT化に伴う研修を必ず位置づけていきたいと思っています。

成果の発表会については、ちょっとまだ要検討かなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今の話ですと4月以降ですよ、導入は年度内にされていくと。早い時期に取り込めるところもあると思うんですが、そういう資質を持った教員がいる学校を指定して、モデル的に試行していくというような活動をしないと、4月からの研修が効果的にならないと思うんですね。その点についてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

ご指摘いただいたことは、そのとおりだと思いますので、各学校の実態を調査する中で、今ほどお話があったようなことを検討していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

全国的に見ると、このICT化の課題は広がる地域格差だと言われておりますね、かなり格差が出るだろうと。それで日経BP社という出版社があるんですが、ここで全国市区町村公立学校情報化ランキングがあるんですが、これは全国の市町村中、何と糸魚川市は小学校が51位、中学校55位、1,800ぐらいの中です、非常に高いレベル、すばらしい位置にいます。これは要するに、活用力も現状で入っているんですね。非常にいいレベルにいるわけですから。今回の補助金で導入されるものについては新しい、今までなかったんですね、今、課長が言われたように使いこなせる者がいない。その中で、しっかり今ある下地を活用して、いいものにしてもらいたい。

効果的でわかりやすい授業の実践ということと言えますと、例えば和歌山市はマイクロソフト社と連携して、52校の市立小学校に計1,300台のタブレットPC、ペンタッチ入力できるPCを導入している。クラスの児童一人一人がそれを使って、テーマに沿って意見や感想を書き込む。

ほかの児童が書き込んだものも見れるので、全員が同時に発表のようなことができると。こういうふうに非常に新しい例もあります。

ですから、ただ機器を使いこなすだけじゃなくて、活用のバリエーションといいますか、そういうものを図っていかなきゃいけない。そのためには、かなり研究していかなきゃいけないことになります。ですから、研修を受けたり協議したりするのは大事ですが、市は学校で情報化をどう進めて授業効率を上げていくのかについて、本当の意味で研究をしていく部分もいるんじゃないかと。先進的にですね、何人かの教員でと、その点についていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

研究が必要であるということは私も認識しています。それを組織的に進めていく必要があるというご指摘だというふうに考えております。市の学校教育研究会等とも相談しながら、そういった部分を立ち上げていきたいというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

児童生徒の情報活用能力の育成のところでは、やはり使いこなす能力だけじゃなくて先ほどから出てますが、情報モラル教育が必要だと。これは精神的に取り組んでいるところと言うと、中学校

ではもう遅いんだそうですね。中学の段階で教育するんじゃなくて、もう小学校でやっていかないと。中学生になると自宅でやはり、もうそういう機器をどんどん使うようになっていくと。携帯のメールの問題もそうですが、小学校でモラル教育をしっかり行っていかなきゃいけないと。その点について、どう考えておられるかお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

渡辺学校教育課長。〔教育委員会学校教育課長渡辺千一君登壇〕

○教育委員会学校教育課長(渡辺千一君)

お答えします。

現在は小学校、中学校、高等学校等それぞれの段階で、発達段階に応じて指導を行ってきております。今ほど議員ご指摘のように文科省等が示している、それでは遅過ぎるんだというようなご指摘をいただいておりますが、また研究して各学校に指導していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

それでは、1番に移ります。

駅舎問題を見ていると、どうも協議が後手に回ってきた感があるんですね。このままいったら在来線問題も、同じことになってしまうんじゃないかという懸念が強いと私は感じているところであります。

そういう意味で、質問を進めていきたいと思っております。

糸魚川市新幹線整備促進まちづくり協議会、その中のまちづくり部会は、新幹線の開業をどうやって市の活性化につなげるか。また交流人口をふやすためにどうするかという課題に積極的に取り組み、平成16年度からは都市計画の糸魚川駅南線の設計にあわせて、駅及び駅周辺デザインについても検討してきたと。その結果として平成17年3月に、糸魚川駅及び駅周辺デザイン等についての提言書をまとめて、市に提出していますね。

このようにまちづくり部会や経済会議等、市民側の団体から出されてきた課題には、どのようなものがあって、それぞれどのような対応をしてきたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

お答えいたします。

駅周辺のまちづくり計画につきましては、14年6月に基本計画を策定いたしております。それを基本といたしまして18年、19年にかけて、議会では特別委員会、それから駅周辺に関しては関係する団体の皆様と説明会等を開催し、いろんな意見を聞かせていただきながら、18年度につきましては、市の基本的な考え方をお示いて、いろんな団体から意見を聞き、取りまとめをし、その意見を踏まえて特別委員会に報告をさせていただくような行為をとっております。

また、19年度につきましては、その意見をもとに糸魚川市の考え方を改めて修正をし、基本的な考え方の見直しを行いそれをまた関係する団体、また議会の特別委員会にご説明をし、その中身を集約いたしまして、先ほど市長が申しましたように19年12月議会で、特別委員会の委員長のご報告も含め、議会の皆様方にご説明申し上げて基本的なスタンスを、市としての駅周辺の整備計画の基本的な考え方をまとめて、今日に至っているというのが経過でございます。

その中で、いろんな機会でお聞かせいただいたご要望等につきましては、聞かせていただいたものもありますし、また、採用できなかったものもありますが、そのような形の中でご要望をお聞きし、今日に至っているというのが経過でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

出された課題にどんなものがあるって、どう対応してきたかということを知りたいですね。課題ごとに、具体的にお答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

例えば新幹線の新駅舎について言いますと、ラチ外※に団体の待合室を設けた方がいいんじゃないとか、トイレについても、ラチ外にも設けてほしいとか。あと観光案内のための施設を設けていく必要があるんじゃないとか、そういうような形でいろんなご要望をいただいております。

※ホーム側を柵内(ラチ内)、外側を柵外(ラチ外)といい、乗降客は正規の乗車券類を持って改札口を通ることによってのみ、ラチ外からラチ内へあるいはラチ内からラチ外へ移動することができる。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

また細かいところは後で聞きますが、この問題はやはり市長が陣頭指揮をとっていくべきですね。ジオパーク認定に向けては、本当に陣頭指揮をとられてきたわけですが。私のところに届いた市民の声で、これは非常に残念な声ですが、45億円の基本設計を見てびっくりしたというのは、まるで他人事じゃないかと。これは大変残念な意見であります。これを聞いてどう思われますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

本当に我々といたしましては15億5,000万円という数字をいただいて、それに向かって進めてきておる中で具体的な数字が出されて、本当にそのときにはびっくりいたしております。それまでに情報は全然入っておりませんので、そういう状況であります。我々は何度もやりとりといたしましうか、時間があつたわけでございますので、変更があるならば事前にいただいても結構でございますが、しかし具体的になってきたときに出てきた数字というのはそのようなことで、非常に驚いていることを、そのまま表現させていただきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

簡易設計から基本設計までの間に、どのような庁内協議を行ってきたかということが大事なんです。今言うように市長を中心にして庁内協議をしっかりと、ジェイアール西日本コンサルタンツに委託するについては、やはりその骨格をしっかりと固めて委託をしなければいけない。設計条件みたいなものは、当然あるわけですね。それには当然、事業費、予算を組んでいるはず。このあたりはジェイアール西日本コンサルタンツに委託する段階で、どのようなことだったんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

お答えいたします。

まず金額的な件につきましては、簡易設計が15億5,000万円であったわけでございますので、その額が基本的な予算における数値であるということでございます。

それから、あと基本的な整備計画の中身につきましては、自由通路の整備というのがまず1点。それから駅舎については橋上駅舎ということを前提として、基本設計をまとめてほしいという中身でお願いをしたものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

簡易設計の15億円が基本だというのは、設計条件に入れたんですね、じゃあ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

設計条件として、予算が15億5,000万円であるということを書いてはおりません。あくまでも簡易設計をした当時の予算が、15億5,000万円であると。その当時の中身が、こういうものであるということにつきましては、委託をする際には西日本コンサルの方にお渡しをしてある。

当然、簡易設計した業者も基本設計をした業者も同じでございますので、基本的にはその資料を両方お持ちの上で、基本設計を進められたというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ということは、相手はわかっただろうと思い込んで委託をしたということですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

わかっておられるだろうということで思い込んで委託をしたということではなくて、当然そのことについては、過去に簡易設計をやったときには、お宅からこのような数字と、このような詳細の中身をいただいておりますと。今回委託をするに当たってはそれを踏まえて、要は、それをもとにして新たに実際に工事を施工するということを想定して、どのような段取りで、どのように進めたら、私たちが描いておる駅周辺の自由通路、及び橋上駅舎の工事施工が進められるかということをご想定しながら、具体的な基本設計がなされるわけでございますので、その辺のことを含めて基本設計の方は設計が進められたというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

質問に根本的に答えてないんですよ。だから予算を条件にしたかどうか聞いてるんでしょう、さっきから聞いてるのは。経過を説明してくれなんて言ってないですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

失礼いたしました。

予算を条件にして委託をしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

予算を条件にしないで委託するというのは、それはどういうことですか。事業費が念頭にない計画なんてあり得ないでしょう。その点について、どう考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

お答えいたします。

簡易設計当時に出された15億5,000万円というのは、全員協議会でもご説明を申し上げたんですが、その当時、実施をされた同じ工事の施工内容を参考にして、算出をされたものに施工床面積を掛けてほぼ出されたものだという事は、皆様にもうご説明をさせていただいたとおりにかと思っております。

それを踏まえて今回は、あくまでも実際に施工ふするという事を想定に入れながら、実際に今度はその施工工程も含めて推測をして、基本設定を策定するわけがございますので、当然、その当時示された事業費というのは重要な事項とは思っておりますが、その予算内で今回我々が委託する事業を、基本設計をまとめてほしいという形では委託をしてあるというふうには考えておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

ああ言えば、こう言うような話はだめなんですよ。予算枠がなくて、計画はないでしょうという話です。そこをどう考えてるかですよ。

建設に関して私の方がよっぽど専門家ですよ、そんな話をよく知ってるんでね、そんなことを何回も言ってもらわんでもいいんです。予算枠を考慮して委託したのかどうかということですよ。

それを答えてください、ちゃんと。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

当然考慮して委託したというふうに考えております。ただ、結果として出てきた結果が、我々が予想していた3倍にもなったものが結果として出てきたと。そのことについては、まことに申しわけないなというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

それを条件に入れて設計委託したんだったら、設計は受け取れんでしょう。条件を満足していないから、そういうことですよ。どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

おっしゃるとおりだと思います。それを条件にして設計委託をしたとすれば、当然それを上回って3倍の額でございますので、条件に違反しとるわけですから受け取られないというふうに考えております。そのとおりだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又も稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

受け取ったんでしょう、委託して、結果は。受け取れないと思っているのに受け取ったと、それはどういうことですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

お答えいたします。

事実として、その数字が示されたわけでございますので、検証につきましては受け取った後にさせていただいたわけでございますが、受け取らせていただいたということについては、私たちが求めたものが提出をされたという確認のもとに、受け取らせていただいたということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又も稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

時間がないですから、それをここでやってるとほかの質問できませんので、また常任委員会等でしっかりお話をしてくださいね。条件にかなっていない成果物を受け取った、これ問題ですよ、そう言われたんですから。

市民側からの要望や提案に対しては、基本設計ができてから協議するという答えが、当時の担当課長からあらゆる場面で返ってきた。これ間に合うんですかね。具体的には基本設計ができてから、どのような対応をするんですか。今言った課題があったじゃないですか。いろんな言われた待合室の問題だとか、トイレの問題だとか、駐車場のことだとかいろいろあると思うんですよね。可能なんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

お答えいたします。

今回の基本設計につきましては、今後事業を進めるに当たってJRさんと委託契約をするための最大の目標数値といいたいまいしょうか、予算額はどれぐらい必要なのかというようなことを求めるために出したものが主な目的でございます。でありますので今回、概算事業費が幾らになるかということにつきましては、まだ協議を進めている段階であります。それがほぼ確定した段階の中で、今度は具体的に、もし委託をするということになりますと実施設計に移ってまいります。実施設計の段階で、いろいろなご要望が出とるわけでございますので、その要望につきましては的確にお伝えし、取り入れるものと、取り入れないものがございませうけれども、ご判断をいただきたいと思っております。

具体的に自由通路につきましては、糸魚川市の要望を最大限に尊重していただけるものというふ

うに考えておりますが、橋上駅舎、半橋上駅舎になるかはわかりませんが、その点につきましては、あくまでもJR西日本の規定というのがあると思っておりますので、その範囲内で受け入れていただけるか、受け入れていただけないかという判断にいくものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

このままいきますと、基本設計から詳細設計に移る段階で絵ができてしまってますから、今の絵は検討されていますけど、また変わるということですけど、課題が解決できないまま、ずるずるいってしまうんじゃないですか、基本設計の段階で盛り込まれてないということになると。それは、そんなことないと考えておられるんですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

お答えいたします。

先ほども申しましたように、基本設計につきましてはJR西日本さんと委託契約を締結するための予算目標と言いますか、それを主に求めるというのが最大の目的で、その裏づけ資料として必要となるために、ジェイアール西日本コンサルタンツに委託をし、出していただいたものでございます。それを参考にしながらJR西日本と協議を進め、それで予算額というものを確定し協定に結びつけ、それをもとに実施設計に入っていくということでございますので、その実施設計の段階で先ほど私が申し上げたような基準に基づいて、それぞれ協議が進められていくというふうに考えておるところです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

ということは、基本設計前の協議のときに、基本設計ができてからというふうに先送りしてきた市民側から出されたような課題を、もう1回盛り込んでいくような作業をどこかでされるんですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

現在、基本設計についても、まだ協議を進めてる段階ではございますが、基本設計が整えば、その後、実施設計の段階につきましては、当然、橋上駅舎の方につきましては、JRサイドの考え方が優先されることとなりますけれども、自由通路につきましては糸魚川市が委託をして、おつくりをお願いするわけ、ですので、その中でご相談をさせていただきながら、取り入れられるものは取り入れられるのではないかと。ただし予算的な制限もございますので、そこの相談という形になっていくと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

橋上駅舎部分も新幹線駅の部分も、やはり市の要望というのは出していかなきゃいけないですね。市民側から見てまちづくりという観点でいけば、JRは自分とこの営業だけ成り立てばいいんですけど、市は違うでしょう。だから、ここはJR部分だからそれは口出せないとかそういう話じゃなくて、どんどん積極的に声を出していかなきゃいけない。それは市民の声を聞きながら、また調整を図っていくという段階が必要になると思うんですが、もう一度そこをお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

当然JR管理下における部分の施設につきましても、ご要望はお伝えをさせていただきたいというふうに考えております。

○13番(伊藤文博君)

市民との。

○新幹線推進課長(小林強君)

先ほど申しましたトイレをつくってほしいとか、待合所をつくってほしいというお話につきましては、その時点でお話を伝えていきたいと思っております。当然、基本設計に至る段階につきましても、そのような願いはさせていただいておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

基本設計をもとに、市民の声を聞く場を設けるということでもいいんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

基本設計をもとに今後市民の要望を聞くということについては、今のところ考えておりません。今まで聞いてきたものを、きちっとその中にお伝えするべく努めてまいりたいというふうに考えてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

いや、それはだめでしょう。だって基本設計ができてから、できてからって言って先送りしてきたね、だからできたら、前に聞いてたから後は聞きませんという話は、それはだめですよ。やはりそれはきちっと設けて、そういう答弁をしてきたわけですから、市民に対してね、それはやっぱりやるべきじゃないでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

先ほども言ってますように、我々は基本設計を今つくるという段階の中で、そういうものが明確になったわけですので、その辺を我々は今受け取ったというところに至っておりません。

まだ受けておりますが、検討をさせていただくということで案をもらったわけにて、その前段階で非常に額が違ってるというのが、やはりわかったわけですので、それについて、今まだそれでいけるかどうかも含めながらも、今ご指摘のように、時間があるのかということも今あるわけですので、そういったタイムスケジュール的なものもあるのですから、それで受け入れられるかどうかということも視野に入れながらも、今、果たしてこれでいけるかどうかというのを。

要するに基本設計の段階であります、今論議をしている段階ととらえていただきたいと思います。完成された基本設計ではないと今とらえておりますので、いろいろ今やりとりをさせていただいているのが実情であります。まず一番やはり大きい問題は、金額が膨らんだというのが、一番大きな原因であるわけですので、それにつきましても、少し下話の中でやりとりがあったのだらうと思うんですが、具体的に出てきたのが4月ということになっております。

○ 13番(伊藤文博君)

市民の声。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

市長が申しあげましたように、今現在は基本設計の中身についてJR西日本と協議をさせていただいているところでございます。それを当面取りまとめるということが、優先をしているというふうに考えておりました、その結果によって、どの程度まで実際に自由通路、橋上駅舎を整備するのかというようなことも煮詰まってくると思っておりますので、その時点で必要があるという話になってくれば、ご指摘のとおりまた理事者ともご相談させていただきながら、対応をとっていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

市長の話はわかりました。基本設計はまだ受け取っていない。その答えを期待しとったんですけども、私から言うわけにいかないので、できてきた段階でやってくださいね。そういう答弁を市民に対してしてきたわけですから、対応を。基本設計が出てきた段階で話聞かないなんて、それはだめですよ。その場逃れしててもだめなんで、きっちりやってもらいたいと思います。

交流人口の拡大には、利用者にやさしい駅であることが、これは重要ですよ。そういう観点で、市民側から見て利用者、そして外から来る人を迎える立場で見た駅舎というのは、非常に大事になってくると思います。当然予算と相撲をとらせながら協議と、これは当たり前のことです。今のように要求をぼんぼん入れていって、ふたを開けてみたら45億円でびっくりしたと。そんな話を繰り返したらおかしいことになりますからね。

それで具体的なとこだけちょっと聞きたいんですが、パーク・アンド・ライド駐車場、これ有料という話が前あったと思うんですね。また2階建てというようなこともあった。今はどういう考え方をされていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。 -- 〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

結論から申し上げますと、まだ明確な方針は決まっておりませんが、ただ、新交付金等の制度が変わってきておりました、当初予定したものよりも補助率が高いものが見込めるといふふうになりました。ただ、政権の移行に伴いまして、その制度が継続されるかどうかということにつきましては、まだわからない点がございまして、そのようなこともございまして、維持管理程度の料金はいただきたいけれども、そうでなくて高額な駐車料金は、いただかなくてもいいような方向で話を進めたいということで、今検討を進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

近隣の上越や黒部というのは、これは今、無料駐車場で計画されてると聞いているんですけど、糸魚川が有料、そしてまた高速道路で安くなると。例えば東京へ向けて行く場合には上越まで車で行って、無料駐車場にとめた方がいい。糸魚川だと有料駐車場にとめるかタクシーを使わなきゃいけない。そんなことにならんように考えなきゃいかんのですが、その取り合いというのは、どう考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

当然、両駅との競争にさらされるわけでございますので、その辺の両駅の駐車状況等も踏まえながら、最終的に判断しなければならないものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

今の答弁はそういうことなんですけど、それはもうマイナスをなくそうというだけの話ですよ。プラスの方向をやっぱり探っていくような癖つけないとだめだと思いますよ。このままいったらマイナスしか考えられない。マイナスになるかならんかわからんから、それマイナスになるかどうか考えて決める。よくてもゼロですね。そういう考えでは、やっぱりだめだと思いますね。

1つ駅周辺で、駅南線の早期解決、これ予算委員会で集約されていますが、その後、進捗状況はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

小林新幹線推進課長。〔新幹線推進課長小林強君登壇〕

○新幹線推進課長(小林強君)

駅南線につきましては、用地の問題が大きな課題となっております。ことしの4月、私、担当課長にならせていただいてから、たびたびお会いさせていただく中で、私の気持ちとすれば、いい方向に進んでいるのではないかというふうに、今のところは認識してるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

予算委員会の集約って重たいですよ。それをもう条件に通したようなことですから、やはり最大

限努力されているんでしょうけど、もっとやっぱり早期解決を図っていただきたいと思います。

在来線について聞きますが、経営分離された場合、北陸線の経営上の課題ってというのは何になりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子商工観光課長。〔商工観光課長金子裕彦君登壇〕

○商工観光課長(金子裕彦君)

お答えいたします。

経営分離されたときの課題ということでは、先般お示しいたしてあります経営計画基本調査等の中で、いろんな問題が出されております。

1つには、施設的な問題というのは、糸魚川～梶屋敷間にデッドセクションがあるというような問題。あるいは旅客数が大変少ない、それから経営分離された場合に、優等列車が走らなくなるのではないかというような問題。その他、車両の確保の問題、それから要員の確保というようなことで、いろんな課題があるわけでございます。その辺たくさんの課題の中から、今後、調査検討を進めていくということになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

大きい赤字が見込まれているんですが、これを解消するための取り組みというのは、今のうちからやっぱり行っていかなきゃいけないんじゃないか。並行・在来線が経営分離されて3セクになったときの問題じゃなくて、今JR時代に、やはり解決してもらうものは解決してもらうように働きかけをしていかなさやいけない。そうしないと、また開けてびっくり玉手箱みたいな話になりますからね。

利用促進にとって重要な課題である利用者の利便性というのを考えたときに、今の北陸線、この糸魚川市周辺を見て、果たして駅の設置位置等を考えただけでも、利便性の高い線路になっているんだろうかというふうに考えます。この辺について何か考え方というのはありますか。新駅設置ということが、課題になってくると思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子商工観光課長。〔商工観光課長金子裕彦君登壇〕

○商工観光課長(金子裕彦君)

お答えいたします。

伊藤議員さんの方から、今、新駅設置というようなお話でございますけれども、今後、経営計画を検討していくことになっておりますけれども、その中で比較的需要が多く見込まれるところについては、新駅を設置した場合、需要動向がどうなるのか、経営収支にどういう影響を及ぼすのかということも含めて、検討するというふうに考えております。

(「議長」と呼ぶものあり)

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

新駅設置のタイミングというのは大変難しいと思いますけど、今、経営計画の中に取り入れていくということですから、やはり地域の声をよく聞いて、例えば糸魚川駅より東側であれば、やはり糸魚川総合病院、糸魚川高校、そこへ通う人の利便性。そうやって考えると、西側から今度はそこを利用する人たちの利便性ということを考えて、検討していかなきゃいけないということになりますので、しっかり取り組んでほしい。

大系線に関しては、並行・在来線ではないわけですが、新幹線開業後の経営について協議はどうなっていますか。また、今後そこに対する協議のスケジュール等があったらお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子商工観光課長。〔商工観光課長金子裕彦君登壇〕

○商工観光課長(金子裕彦君)

お答えいたします。

今、伊藤議員さんのお話にありましたように、大系線については並行在来線という位置づけではありません。現在、JR西さんとお話をお聞かせいただいておりますところでは、JR西が引き続き経営をしていくんだという考え方だとお聞きいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

大糸線ですが、JR東ではハイブリッドシステムを搭載した新型リゾートトレインの導入を、ことしの2月に決定して公表しています。大糸線に南小谷村以北への乗り入れについて、要望を行ったような経緯はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子商工観光課長。〔商工観光課長金子裕彦君登壇〕

○商工観光課長(金子裕彦君)

お答えいたします。

ちょっと月日等の詳細は、ちょっと手元の資料にございませんけれども、今までの間にJR西の方に、糸魚川まで運行乗り入れしていただきたいという要望をいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

要望されたということですからまた引き続き、一度言っただけではだめでしょうから。これはディーゼルエンジンなんですね。ですから、こちら側にも入ってこれるということです。

新潟県知事と上越3市町の新幹線列車運行についての合意というのがあって、上越は全本数停車、糸魚川は可能な限りということなんですけど、この可能な限りというのは、ちょっと具合悪いと思うんです。少なくとも今の「はくたか」の運行状況を見て、もう少し具体的に何本、現状から見て何本以上、プラス・アルファ可能な限りというような提案をするべきだと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

深見建設産業部長。〔建設産業部長深見和之君登壇〕

○建設産業部長(深見和之君)

議員からお話のありました知事と3市町の要望の関係でございませぬども、国への要望の中国まおっしゃるとおり、上越市については全列車停車ということで知事が要望しておりますが、当市につきましても、できるだけ多くの本数ということにございませぬども、具体的な目安といたしまし

では、現在のはくたかの停車本数が基本になりまして、それよりも少しでも多くということ考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

考えているということなんですか。それとも、そういうふうに要望してあるということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

深見建設産業部長。〔建設産業部長深見和之君登壇〕

○建設産業部長(深見和之君)

お答えいたします。

まだ県の方等に具体的に話はしておりませんが、その辺を目安に考えて、なるべく多くというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

それじゃだめですね。やはりしっかりとそれを、もし今の段階で言えてないんだったら、早い段階でやっぱり表明するべきだと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

深見建設産業部長。〔建設産業部長深見和之君登壇〕

○建設産業部長(深見和之君)

今の趣旨につきましては、今より利便性が低下しないようにということが最低限だと思っておりますので、それをもとに、なるべく利便性が向上するようということ趣旨で申し上げたわけでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

ただ表には、可能な限りとしか出てないんですよ。やはりそれはしっかりとした形で、表にあらわしていくべきだということなんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

深見建設産業部長。〔建設産業部長深見和之君登壇〕

○建設産業部長(深見和之君)

お答えいたします。

知事は上越につきましては、全列車停車ということで表明されておるんですけども、当市につきましては、なるべく多くとなることにこしたことはないわけですけども、どのタイミングに、どのような形での要望等、具体的な数字につきましては、まだ予定ダイヤといいますか、その辺が決まっておきませんので、考え方として利便性が低下しないように、最大限今の利便性を確保した上で、なるべく多くという考えでございますので、具体的に本数といいますのは、まだ全体のダイヤも公表されておきませんので、なかなか難しいというふうに考えております。考え方として、表明すべきじゃないかと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

いずれにしても可能な限りという表現じゃなくて、もう少し具体性を持った、考え方にしても、ことを言っていくべきだと思います。

ジオパークについて聞きます。

交流人口拡大プラン、これは要するにジオパークを利用して、糸魚川市はこうなるんだという姿を実現するための手法、計画を定めたもので、ジオパークでどうなるのと、どういう糸魚川市にするんだということを市民に示さないと、理解が進まないと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

このたび中間報告でお示しているのは、まだまとめている最中なのでございますけれども、この交流拡大人口というものにつきましては、このジオパークの大きな柱のうちの1つだというふうに考えております。そういった中で、いかにして糸魚川に、より多くの方々が来ていただくかということを中心に考えております。

したがって、特にこの中身といたしましては、今までもそうなんですけれども、観光というものをもっとメインにしながら、それに関連するものを挙げてあるわけでございます、そういったように観光を中心に、あるいは交流人口増加を中心に、計画づくりをしている最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

織田総務企画部長。〔総務企画部長織田義夫君登壇〕

○総務企画部長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

今、企画財政課長の方から、交流人口拡大プランにつきまして、若干説明を申し上げましたけれども、伊藤議員の方は、逆に糸魚川をどうするんだという観点で、どうかということでもあります。

それで世界ジオパークを目指してということで、昨年、ジオパーク構想というこの冊子を作成をさせていただきました。これによって世界ジオパークを目指してやってたわけでございますけれども、今回、世界ジオパークに認定されましたので、またこの辺につきましては今度は世界ジオパーク認定になったということで、これからどうするというところで、そういう観点で構想も若干改定をしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

糸魚川をどうするのかというその姿というのは、これは夢ですまね、糸魚川市にとって。実現すべき姿、そして目標だと。それを明らかにしておいて、それを実現するための手段として、このプランがあるんだという位置づけ。ところが、実現すべき姿が明らかにされていない、市民の理解が進まないということです。どう考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

織田総務企画部長。〔総務企画部長織田義夫君登壇〕

○ 総務企画部長(織田義夫君)

お答えを申し上げます。

伊藤議員のおっしゃいます方法の方は、極めてその辺が本筋かというふうに考えております。ただ、昨年から議会の方からも、交流人口拡大を目指した具体的なプランを早急につくれと、なおかつ実施をせよという要請もあったということ踏まえまして、今回、交流人口拡大プランをまずもって作成をしたいということで、できましたら世界ジオパーク認定になる前ということだったんですけども、もうなってしまうかもしれません、そういうことで今早急にこれを、今月中につくり上げたいということで今やってる最中でありまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

交流人口拡大プランは全然否定してないんですよ。これはもうどんどんつくって進めていってもらいたい。ただ、やはり市民理解を進めて、例えばジオパークっちゃ何やと、そんなものに金使うんなら、市民税払わんぞという人だっているんですよ。だからそういう人たちに、ジオパークで糸魚川市どうなるのかと、夢のある姿を見せなきゃいけない。

市長はやはり政治家として、夢を語らなきゃいかんと思いますね、市民に対して。ああ、糸魚川はこんなよくなるのかと。それを実現するためのプランとして、交流人口拡大プランという考え方なんです、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○ 市長(米田徹君)

お答えいたします。

ジオパークの基本理念でもございますように、自然資源を保全をし守り、そしてまた地域振興につなげるという、やはり基本理念はそこにあるわけがございますので、それに沿って我々糸魚川市は、自然に非常に恵まれておる市でございますので、そういったところを生かしながら地域振興と

いう形で進めていきたいわけでございますので、そういったものを市民にお示しできるようなものにもっていききたいと思ってる次第でございます。

ですから、今まで交流人口というものが、非常に叫ばれてきたわけでございますが、なかなかうまくいってなかった部分があるわけでございますので、そういったところを中心にもっていききたいと思ってる次第でございます。

ですから、確かにジオパークは何ぞやと言われるわけでございますが、今までやってきたように我々の地質資源や自然資源を生かしたまらづくりの核にもっていききたいということで、確かにもう少し明確にと言われるわけでございますが、やはり基本的な核になるところは、そんなところだろうと思うわけございまして、その辺をもう少し、市民にわかりやすくすることも大切かと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

わかりやすく示していただきたいと思えます。

今こうやって認定になりましたから、全体のすべての計画をつくり上げてから動く、これじゃあもう遅いんですね、思いついたことからどんどんやっていく。一方では、それをまとめ上げていく作業が必要だと。いろんな意味で修正を図ったり、調整を図ったりしていくということになるんですが、これはどの部署がやっていくことになりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

今現在、私ども企画財政課が中心となって庁内といいますか、各セクションを取りまとめていくという形になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

別の角度からちょっと話しますが、内閣府の地方の元気再生事業については6月議会の一般質問で質問したけど、答えられなかったですね、全然念頭になかった。これはその後、直後に採択になってからサテライトオフィスの開設、キックオフフォーラム、これは認定日に行われた画期的な、偶然にしてもすごいことになりましたけど、それから糸魚川ジオパークを生かすシリーズ勉強会の開催とか、動きが活発になってきています。

でもこれは、もしこの事業採択にならなければ、民間側からこれが申請されなければ、何も動いてないんじゃないかという心配があるわけですよ。これはどう考えてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

吉岡企画財政課長。〔企画財政課長吉岡正史君登壇〕

○企画財政課長(吉岡正史君)

確かに議員がご指摘のように計画全体といいますか、進捗状況がおくれているということはございます。それにしましても、今までは確かに認定に向けて、私ども行政が中心になって活動してきたわけですが、あわせてもう認定されればお客さんが、当然、もう認定されたということは、もう整備されてるという形で、多分おいでになることだというふうには認識しております。

そういった中で私どもは、今までも微速というか、遅いながらも看板を整備したり、あるいは案内所をつくったりしてきておるといった状況であります。確かに関係の方から見れば遅いじゃないかというのは、私どもも認識しておりますので、少しでもそれを回復していくよう、努力していきたいなというふうには今考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○市長(米田徹君)

お答えいたします。

元気再生につきましても、決して行政は何も知らなかったということでございませぬ。やはり行政もその中に加わっていかないと、それは承認されない部分でございませぬので、一体となって進めております。

ただ、忙しいという形の中で、商工会議所の皆様の方の作業の方で、進めていただいたということであるわけでございまして、いろいろな方々のご協力をいただく中で、これは進めていきたいと思ってる次第でございまして、協議会という1つの大きい組織の中で、動かさせていただいていたと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

この地方の元気再生事業について、市は何もやってないなんて言ってないんですよ。発議が民間側からあった。これがもし採択になってなければ、動きが今のように活発にならんかったらうということ言ってるわけで、それについての考え方を聞いたわけですね。

例えば、観光案内所とかサテライトオフィスに観光客が来た場合、まず見てもらえるサイトはどこか、そのサイトへのアクセスはどうか、宿泊施設はどうなのか、ガイドさんはどうなのか。やっぱりこういうところていくと、市の側の調整能力というのが非常に問われる。例えばジオパーク推進室の役割なのか、商工観光課の役割なのか、観光係とジオパーク推進室でやっぱり一体となって取り組んでいかなきゃいけない部分というのは、そういう部分だけ見てもあると思うんですね。

先ほど4月にその専門の部署をつくりたいというごでしたが、ちょっと遅いんじゃないでしょうかね、4月の対応では。観光課という略称になるんでしょうけど、もっと早く取り組んで、フレキシブルに対応できる体制をつくるべきだと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

織田総務企画部長。〔総務企画部長織田義夫君登壇〕

○総務企画部長(織田義夫君)

お答え申し上げます。

来年4月からの組織機構につきまして、現在検討しております。そういうことで、その中で言うならば交流と観光に特化したセクション、課をつくりたいということでもあります。そういったことで、やはりそこだけではなくて庁舎内の今の組織全体を見直した上で、いろんなところのものをしたいということでもあります。そういった点では、やはり来年の4月1日からというのが、一番いいのではないかなというふうに考えております。

ただ当然ながら、現在、ジオパーク推進室、大変忙しくなっております。特に世界ジオパーク認定になりましてから、いろんなマスコミ、それから各団体からの要請がたくさんありまして大変ななっております。そういった点では、もう少し人数の方も増強をしなきゃならんというふうに考えて一応してるわけですけども。

ただ、庁舎全体で見ますと、今、選挙も一応ございましたし、それから、今後、国体もあります。そういった点を踏まえまして、その辺を見ていつかの段階では、きちんと人数もふやして何とか今年度は対応したいと。そして新年度で、そういう組織をきちんとしたいというふうに考えておりま

す。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

庁舎全体の組織を見直しているということではありますが、これジオパークはやっぱり物すごく時間の流れが速くて、認定も早くなったり、そして認定に向けての作業が忙しい中で、認定後の対応をしてこなさやいけないという、非常に過密なものできたために遅れていると。遅れている現状を認識するのであれば、やはりちょっとこの部分に特化した組織改革といいますか、新しい課を1つ設けるんじゃないにしても、やはりそれに等しい例えば机の場所を変えることだってあるわけですよ。

企画財政のジオパーク推進室が、商工観光課と並んどったっていいわけですね。そういうことも考えていかなさやいけないと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

米田市長。〔市長米田徹君登壇〕

○ 市長(米田徹君)

議員ご指摘のとおり非常にジオパークは、また認定になってからもかなりいろんな事柄が起きて、忙しくなっておるのも事実でございます、市内1ついじると、すべていじらなさやいけないのが人事であるわけでございますので、来年の4月までの間は、応急対応していきたいと思うわけでございます、いろいろ行事があります。そういった中で、どごへ置けばいいのかということもあるわけでございますし、また、今事業を進めている中で少しは事業が完了し、少し手に余裕が出てきたところもあるのかもしれないので、その辺を見直す中で、どういのが一番効率よく動けるかということも検討させていただいて、対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○ 13番(伊藤文博君)

そんな中で、それぞれのサイトについて大まかな見通しを立てて、現状と課題を明らかにしてい

かなければいけないですね。

例えば公共事業を導入して、道路、砂防、地すべり対策の方に取り組みないといけない箇所も多いと思います。これも前回ちょっと質問したんですが、認定になってからというような答弁でしたから、これについてはどう考えてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子建設課長。〔建設課長金子晴彦君登壇〕

○建設課長(金子晴彦君)

今21年度の途中ですから、すぐ国なり県なりの予算が、すぐこれに向けてつくということではありませんけども、今いろいろ国土交通省なりにお話する中では、このジオパーク認定に対して高田河川国道事務所や、北陸地方整備局、それから本庁へ行きましても、これに向けて協力できるものは、いろんな事業をタイアツプした中で、当然その物語は大事でしょうけども、そういう形で今話をいろいろ伺っておりますので、そういう形に向けて、1つ1つ積み重ねていきたいと思っております。

それは砂防でも、河川でも、また道路でも、そういう形で今お話を受けておりますので、そういうふうに進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

最後に、観光協会について伺います。

観光協会がジオパークを核にして一緒になるか、または連携を深めて対応していかなくちゃいけない。これは課題が多いわけですけど、この点はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子商工観光課長。〔商工観光課長金子裕彦君登壇〕

○商工観光課長(金子裕彦君)

お答えいたします。

伊藤議員さんがおっしゃるとおりでございます。市内の3つの観光協会がジオパークを核として誘客宣伝、あるいはジオパークをめぐるコースづくり等々、連携して一緒になって取り組まなけれ

ばならない事業が多々あると思っておりますので、そういう取り組みを進めてまいりたいというふうに、観光協会の皆さんと話をしておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

具体的には一緒になれないでいるわけですけど、どういうふうに進められるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子商工観光課長。〔商工観光課長金子裕彦君登壇〕

○商工観光課長(金子裕彦君)

お答えいたします。

組織を1つにするというのは、なかなか難しい状況がございます。したがって、前段申し上げましたように、一緒になって糸魚川の観光振興をしていくという3つの観光協会の連携を深めて事業をやっていくという取り組み、一緒になって取り組んでいく事業を幾つかつくって、一緒になって観光振興を進めていくという取り組みを、当面、続けていきたいというふうに思っております。

失礼いたしました、3つの観光協会を束ねると言いますでしょうか、協働でやる組織として、観光協会連絡協議会というのがございまして、その組織のもとに連携をしていきたいということでございます。舌足らずでございまして、大変失礼しました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

その観光協会の連絡協議会、片一方で地方の元気再生事業で採択になって、サテライトオフィスが活発に活動した。ここをちょっと、またうまく連携していかならん。それをどう考えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

金子商工観光課長。〔商工観光課長金子裕彦君登壇〕

○商工観光課長(金子裕彦君)

伊藤議員さんおっしゃるとおり、今、糸魚川駅前にあります、す糸魚川ぶらっとでございましたでしょうか、等々連携をしながら進めていかなければならないというふうに思っておりますので、前段申し上げました観光連絡協議会の皆さんとともに、連携をとっていく考えでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長(倉又稔君)

伊藤議員。

○13番(伊藤文博君)

さっきも言ったように、動きながら考えている段階だと思うんですよ。だからやっぱりいろんなところに目を向けて、本当にアンテナを張りめぐらせて調整をしていくというふうをお願いしたいと思います。

ありがとうございました。

○議長(倉又稔君)

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。